

私の太宰

太宰

その魅力

今年は太宰治の生誕百年

タージュを書いている。

になる。
人は誰しも故郷の子であ

り、時代の子である。「太
宰以降」、津軽に生まれそ

だつた文学少年少女は、誰
もが、一時期、太宰に引き

よせられ、夢中にならずに
はいられない。

例えば、太宰より二十六
歳、年下の寺山修司は、青年
期、自分も「太宰治」にな
りたいと強くあこがれてい
た。早大に進学し、ネフロ
ーレで入院したころも、太
宰の「道化の華」などを読
み、ふけっていた。その後、
歌人やシナリオライターと
して活動しはじめるようにな
ってからも、ずっと太宰
を意識していた。

長部日出雄さんも鎌田慧
さんも太宰の評伝やルポル
太宰の文学碑のある蟹田で

かわらず、太宰治の声望は
海外にも及び、今でも忘れ
させられることがない。太宰
は津軽を宿命として引きう
けながら現代のあまねく世
界を語っていたからであ
る。

実際その衝撃的な死から
六十年以上が過ぎたにもか
かかず、日本中こんな作家は例が
ない。これは津軽という風
土ゆえに見られる郷党の身
びいきといったものなの
か。そうではあるまい。

少年時代を過ごしたこと。
それからビートルズの音楽
を干代だった一九六〇年代
にリアルタイムで聴けたこ
と。

太宰治とビートルズは似
ている。なんて感じている
のは私だけかもしれないけ
どビートルズの音楽も、
それまでのポップスとは明
らかな一線を画し、太宰の
文学と同様、実にわかりや
すくてチャーミングだっ
た。「I」と「YOU」を
フルに駆使して「愛」を訴
えていた。私にとっては文
句なしに面白過ぎたのであ
る。

現在は出版不況といわ
れ、人々の活字ばなれは年
を追うごとに深刻だ。太宰
の生きた時代とちがって、
本を読まずとも、さまざま
な情報メディアや娯楽があ
つて、活字文化は相対的に
衰退しつつあるように見え
る。太宰の時代は、活字が
多くの人々に自分の気持ち
を伝える最有力な手段だつ

ビートルズとも共通点

カット・津島園子



だひたむきに自分の言葉
で、どうしたら人を喜ばせ
ることができるかと骨身を
削って考えつづけたのだと
思つ。

だから生まれて百年、死
んで六十一年めというのに
今までこんなに皆に愛され
ている。私は「太宰治生誕
百年」というこの年を、そ
んなふうに受けとめてい
る。

た。

とはいって、どんな時代で
愛し愛されて生きていきた
いと願う気持ちは万古不变
のものだろう。

あつても、人は誰かに愛さ
れたいし、誰かを愛したい。
自分の思いを人に伝えて、
たがり屋だ。そのため、た

青森駅まで延びる。一九四
八(昭和二十三)年の初夏、
太宰は、山崎富栄と大宮で
半月ほど過ごし、「人間失
格」を書きあげている。三
鷹に戻つて入水自殺したの
は、その直後だつた。もしも
タイムマシンがあつたら、
その大宮に出かけていつ
て、「先輩! 津軽に帰つて
休みましょうよ」とムリヤ
リにでも東北本線の車中に
押しこんでやりたかつた。

太宰治は人一倍の愛され
(ノンフィクション作家)